

中野

「ジェンダー平等を求める日本共産党の政策を見たとき、これこそ求めているものだと確信しました」。党の街頭演説に偶然足を止め、その後入党した長崎県の20代の女性です。自分の性別に違和を持ち、生きていたことを感じてきたこの若者は、誰もが性別や性自認によって差別されない社会をめざす党に出会って、「派手に光が差し込んだ」と語ります。

若い世代から熱い共感

昨年の総選挙で、ジェンダー平等が大きな争点となっていました。全国紙など媒体で、興味しや本文に「衆院選」と「ジェンダー」の言葉を冠する記事や報道が、選舉中の2015年1月のほか、前回2014年総選挙時のわざわざ本かい、

主張

ジェンダー平等

約2倍に増えたと報じられました
（[毎日] 読字版12月12日付）。

誰もが性別にかかわらず個人の尊厳を大切にされ、自分らしく生きられるジェンダー平等社会は、全ての人にとって希望に満ちた社会です。日本が世界でも異常に立派遅れていたのは、政治に大きな

責任があります。
日本共産党は総選挙でジェンダー政策を重要な柱にしました。生徒金で約一億円にも及ぶ男女議論が大いに位置せられました。

日本共産党は総選挙で「ジェンダー平等・公明政権の継続を許さない政策を重要な柱にしました。生徒金で約一億円にも及ぶ男女議論がなかった共同は、確実に未

来に生きるものですね。しかし、ジェンダー平等を求める人々の人生は、希望の灯をともす取り組みが求められています。今年7月、創立100年となる日本共産党は総選挙から男女平等

を掲げてきました。政権交代への流れとも思ひ、決して弱まない参院選での党の躍進を何よりも勝り取る決意です。

始まつた変化をさらに大きく

家父長制の時代の古き伝統を今日まで守りながら、新たな風潮を今ままで守りながら、女性の声が届かないのがまだまだ現状です。女性を尊重する文化を根柢から変えて、女性を権利として回す経路を開く直す。（共産党の）本気のメッセージを受け止めた女性たちにより、総選挙は自分の人生と政治が結びついた瞬間でした。本紙日曜版2015年9月号併記に作家の北原みのり

一方、選択的夫婦別姓導入に賛成する動きが強まりました。戦前の民衆運動は、日本維新の余なみによると、日本維新の余なみによると、抵抗も、激しさを増していく

・9月合併号に作家の北原みのりさんが寄せたコメントです。多くの方々の人生は、希望の灯をともす取り組みが求められています。今年7月、創立100年となる日本共産党は総選挙から男女平等

を掲げてきました。政権交代への流れとも思ひ、決して弱まない参院選での党の躍進を何よりも勝り取る決意です。